

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年9月18日

【評価実施概要】

事業所番号	4074200140		
法人名	株式会社 西日本介護サービス		
事業所名	グループホーム ウイズライフ新宮		
所在地 (電話番号)	福岡県糟屋郡新宮町下府 1- 4- 12 (電話) 092- 941- 5710		

評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋 2- 2- 51		
訪問調査日	平成20年9月8日	評価確定日	平成20年9月30日

【情報提供票より】(20年 6月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 7月 11日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	15人, 非常勤 2人, 常勤換算 5.9人

(2) 建物概要

建物形態	併設/単独	新築/改築
建物構造	鉄骨 造り	2階建ての 1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(165,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有) 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(6月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護 1	6 名	要介護 2	4 名		
要介護 3	3 名	要介護 4	2 名		
要介護 5	3 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	76 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	竹村医院、輝栄会病院、前田歯科
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

幹線道路から少し入った、近隣に医院やコンビニ等が立ち並び利便性が高い住宅地に位置したグループホームである。地域の住民との関わりが深く、利用者の散歩の途中で声をかけてくれたり、家に咲いている花を分けてくれたり、自然な地域との付き合いが来ている。また利用者がホームから出て行ってしまっているのを見つけて教えてくれたりすることもあり、地域住民はホームの利用者が心地よく過ごせる生活を支えてくれている。散歩の他にも、レクリエーションとして外出する機会も多く、その時の写真をホーム内に飾ったり、アルバムに綴じており、利用者をはじめ、その家族等が見て楽しむことが出来るものとなっている。利用者が楽しんで生活を送っている様子を窺い知ることが出来た。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価での改善項目については、管理者と職員で検討、話し合いを行い、改善できるものや必要と思うものについては、積極的に取り組みを行い、改善を図っている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	まず職員がそれぞれ思っていることを自己評価票に記入し、それを集めてその内容をホーム長が中心となり、まとめて作り上げた。自己評価を基に、管理者、職員と話し合いながら、よりよいサービスが提供できるように取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	区長や町の職員、民生委員、町議会議員、利用者家族等が出席して、2ヶ月に1回開催している。会議ではホームの取り組みや行事等を報告したり、逆に地域の情報を教えてもらう等、双方の情報交換の場となっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法(運営への反映(関連項目:外部8, 9))
	行事ごとの時に、合わせて家族会を開催しており(年1~2回)、運営推進会議のことを報告すること合わせ、家族の希望や要望を出してもらう機会としている。また、利用者の状況を月1回モニタリング兼評価の書類として作成し、家族に送付するようにしている。体調不良等あった際にもすぐに家族に連絡をして、対応するようにしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	敬老の日の集いを開催し、地域の老人クラブの方達に参加してもらったり、社会福祉協議会が開催するふれあいフェスタや公民館の夏祭りに参加する等、お互い行き来しながら交流を深めている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中にあるグループホームとして利用者の能力に応じ、自立した生活を営みます」という理念をもとに、基本方針にも地域との関わりということを組み込んで作成している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送りやミーティングの時間を使って、理念について話しをすることをはじめとし、毎朝、介護の心得 10 条の唱和を行い、意識の向上に取り組んでいる。		
2.地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	敬老の日の集いを開催し、地域の老人クラブの方々に参加してもらったり 社会福祉協議会が開催するふれあいフェスタや公民館の夏祭りに参加する等、お互いに行き来しながら交流を深めている。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	まず職員がそれぞれ思っていることを自己評価票に記入し、それを集めて、その内容をホーム長が中心となりまとめて作り上げた。昨年の外部評価においての改善点についても、話し合いをした上で改善に向けて取り組みを行った。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長や町の職員、民生委員、町議会議員、利用者家族等が出席して、2ヶ月に1回開催している。会議ではホームの取り組みや行事等を報告したり 逆に地域の情報を教えてもらえ、双方の情報交換の場となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム内で事故があった場合には、速やかに町に報告書を提出するようにしている。また、利用者の状況に応じて、住所地の変更等の相談に行く等、ホームの状況を把握してもらえるように働きかけている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員に対して研修を開催したり、資料やパンフレットも常備しており、制度についての知識を深めている。地域の方が相談に来ることも多いので、必要に応じて制度の説明も行うようにしている。		
4.理念を实践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、利用者の身体の状態をモニタリング兼評価として書類を作成し、それを家族に送付するようにしている。また、体調不良等、何か特別なことがあった際には電話等ですぐに連絡をして対応するようにしている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事の時に合わせて家族会を開催しており(年1~2回)、運営推進会議の内容を報告するとともに、家族の希望や要望を出してもらう機会としている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	正社員のみ異動があるが、どうしても嫌な人には無理には行わないようにしている。もし異動や退職がある場合は、入居者や家族にも事前に説明して理解を得ている。利用者へのダメージが最小限に抑えられるように、引継ぎも時間をかけて行うようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の採用にあたっては、その人本人の資質やグループホームに向いているかどうかを1～2日ボランティアで来てもらって見極めるようしている。年齢や性別、資格等で採用から排除することはない。</p>		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>人権教育については、ネグレクト等知らないうちに行っていないかを確認しあいながら、ミーティングの時間等使って実践に基づいた形で話しをするようしている。</p>		
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部研修については法人内でカリキュラムを作成し、それに沿った形で定期的開催している。研修後は内部研修報告書を作成し、全員に回覧するようしている。</p>		
14	22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>近隣の他のホームを見学に行ったり、他から見学に来たりする機会も多く、同業者との交流の場は多い。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>体験入所を利用してもらったり ホーム側から事前に何度も面会に行く等して、徐々に馴染んでいけるような配慮や工夫を行っている。</p>		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり 支えあう関係を築いている</p>	<p>本人本位ということと大事にし、何にでも手を出すのではなく、出来ることはやってもらったり 逆に教えてもらったりしながら、共に支えあう関係を構築している。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>普段の会話の中から、本人がどのようにしたいのか、どのような思いを持っているのか等を探りながら、アプローチを行っている。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>担当制をとっているため、それぞれの担当がケアプランを作成し、それをもとにカンファレンスを開催し、職員の意見を反映している。利用者、家族の意見については事前に面談を行い、それらを反映させたケアプランを作成している。</p>		
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回、モニタリングを行った上で見直しを行い、新たな計画を作成している。状態に変化が見られた場合には、その都度見直しを行うようになっている。見直しを行った計画には、家族から同意のサインをもらっているが、同意日の記載がなされていない。</p>	○	<p>いつの時点で同意をもらったのが確認できるように、日付まで記載してもらいたい。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個別ケアに力を入れているところであり 外食や買い物等、本人のその時々々の要望に応じ 臨機応変に対応するようにしている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者全員、ホームの近くにある協力医院を受診している。状態によっては往診してもらうこともあり 主治医とは常時相談できる体制となっている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期についての指針を作成しており 入居時に説明を行い、同意をもらっている。実際にその状態になられた場合、かかりつけ医をはじめ、家族とも話し合いながら対応するようにしている。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対する職員の言葉かけや対応は、ゆっくりと穏やかに行われており プライバシーを損ねるような場面は見受けられない。また記録類についても事務所内の鍵がかかる棚で管理している。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースに合わせて、決して無理強いはいしないように対応している。可能な限り その人の希望に沿った援助が出来るように配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれが出来る範囲で関わりを持ってもらうようにしている(味見をしてもらったり作り方を教えてもらう等)。利用者と職員が同じテーブルで同じ食事を摂りながら、ゆったりとした食事の時間を楽しんでいた。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯や曜日等、利用者の希望に沿って入浴できるようにしている。中には入浴を拒否する利用者もいるが、無理強いせず、言葉かけでうまく誘導できるように心がけている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が持っている力を活かして、縫い物や編み物、洗濯物たたみ、調理等、無理強いすることなく、自然にそれぞれの役割をもってもらえるように支援している。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	それぞれの希望を聞きながら、散歩や買物等に出掛けている。また時には外食やドライブにも出掛けることもあり、積極的に戸外にでる機会を持っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており鍵をかけないケアに取り組んでいる	警察から玄関の鍵をかけておくように指導されており電子錠にて施錠はしているが、外出傾向にある利用者等いれば、見守りや付き添いにて援助を行えるような体制を作っている。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回避難訓練を行っている。その際、夜間を想定した訓練も行い、いざという時に備えている。地域の協力も得られるように、訓練時に参加を促す働きかけも行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	夕食のみ材料は業者からとっており、また、栄養士もいるのでおおよそのカロリーの把握はできている。水分摂取についても、管理の必要な人はチェックを行っている。特に夏場は脱水にならないように、積極的な水分摂取に努めている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングはソファやテーブル、装飾品等、一般の家庭にあるようなもので揃えられており、心地よく過ごせる空間作りがなされている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室には、好みのものや使い慣れた家具、人によっては仏壇等も持ち込まれており、自宅にいる感覚で居心地よく過ごせる空間づくりがなされている。		